

● 訪日外国人消費動向調査の概要（2018年1-3月期～）

A 全国調査

【目的】国籍・地域別の
詳細な消費動向の把握

- 調査対象者 日本を出国する外国人（滞在期間1年未満）
- 調査地点 17空海港の国際線搭乗待合ロビー
- 目標サンプルサイズ 1四半期当たり7,830票
- 調査方法 外国語会話可能な調査員による聞き取り調査

B 1 地域調査

【目的】都道府県毎の
消費動向の把握

- 調査対象者 日本を出国する外国人滞在期間1年未満
- 調査地点 25空海港の国際線搭乗待合ロビー
- 目標サンプルサイズ 1四半期当たり26,174票
- 調査方法 外国語会話可能な調査員による聞き取り調査

B 2 クルーズ調査

【目的】クルーズ客の
消費動向の把握

- 調査対象者 船舶観光上陸許可を得た者
- 調査地点 博多港、長崎港、那覇港
- 目標サンプルサイズ 1四半期当たり960票
- 調査方法 外国語会話可能な調査員による聞き取り調査

● 全国調査の調査地点

新千歳空港／函館空港／仙台空港
羽田空港／成田空港／小松空港
富士山静岡空港／中部空港／関西空港
広島空港／関門（下関）港／高松空港
福岡空港／博多港／厳原港／鹿児島空港
那覇空港 以上17空海港

● 地域調査の調査地点

新千歳空港／函館空港／青森空港
仙台空港／茨城空港／羽田空港
成田空港／小松空港／富山空港
富士山静岡空港／中部空港／関西空港
米子空港／岡山空港／広島空港／境港
関門（下関）港／高松空港／福岡空港
博多港／佐賀空港／厳原港／宮崎空港
鹿児島空港／那覇空港 以上25空海港

● クルーズ調査の調査地点

博多港／長崎港／那覇港 以上3海港



用語の定義

- 訪日外国人旅行者数（JNTO「訪日外客数」）を、船舶観光上陸許可を得たクルーズ客とそれ以外の訪日外国人に区別して調査設計を行います。
- 本調査では、船舶観光上陸許可を得た者をクルーズ客と呼称します。クルーズ客の消費動向は **B 2 クルーズ調査**により把握します。
- クルーズ客以外の訪日外国人を一般客と呼称します。一般客の消費動向を **A 全国調査**および **B 1 地域調査**で把握します。

訪日外国人旅行者数

=

一般客の人数

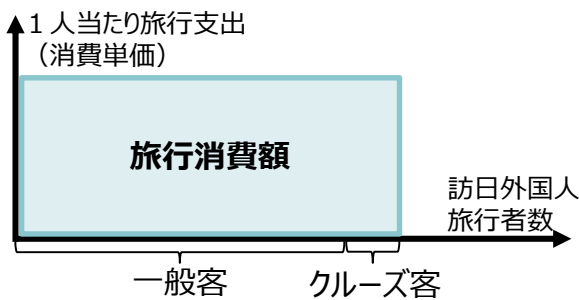
+

クルーズ客の人数

<補足:2018年1-3月期からの統計手法の変更について>

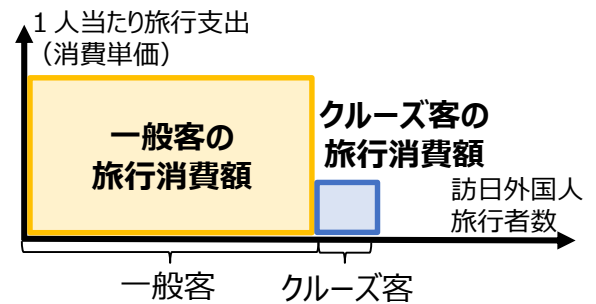
- 2010年の調査開始時にはほとんど見られなかったクルーズ客が近年急速に増加し、2013年の約20万人から、船舶観光上陸許可が新設された2015年には100万人を超え、さらに2017年には約250万人となりました。
- クルーズ客の消費動向は、一般客と必ずしも同様ではないことから、訪日外国人旅行者の消費動向をより正確に把握するため、2018年1-3月期より、クルーズ客を対象とした新たな調査を実施することとしました。
- また、地域調査の拡充に合わせて、2次速報において、調査期間中の港別/国籍・地域別の出国者数を考慮して1人当たり旅行支出をより正確に算出するなど、統計手法の精緻化を図ったところです。
- なお、クルーズ調査を開始した2018年1-3月期より前は、クルーズ客の1人当たり旅行支出が把握できない等、新たな調査・推計手法を過去に遡って適用することはできないため、2017年までの旅行消費額や1人当たり旅行支出の数値と単純に比較することができないことには留意が必要です。

<従来（～2017年）>



<クルーズ調査開始後（2018年～）>

クルーズ客の消費額を新たに算出



◎ 統計手法精緻化の例

港別/国籍・地域別の出国者数を考慮した1人当たり旅行支出の算出
例：韓国（2018年1～3月期）

調査空港	1人当たり旅行支出	調査票数 ^注	1-3月期の出国者数（構成比）
成田空港	105,672円	99票(11.7%)	14.1%
関西空港	75,393円	208票(24.5%)	33.4%
博多港	59,119円	50票(5.9%)	2.3%
...

1人当たり旅行支出	
昨年の出国港毎の出国者数の構成比でウェイトづけ	75,813 円/人
1-3月期の出国港毎の出国者数の構成比でウェイトづけ	78,650 円/人

注) 調査票数は、前年の港別の出国者数の構成比に応じて配分